

第12章

前置詞

第1節 前置詞の概要

1. 前置詞の基本的な働き

「前置詞」とは、「名詞の前に置かれ、句を作り出す品詞」のことです。前置詞によって作られた句は、通常「形容詞句」か「副詞句」となります。

(1) 前置詞が作った「句」の働き1（「形容詞句」か「副詞句」として「修飾部分」となる）

「前置詞」が名詞の前に置かれることで作られた「句」は、「形容詞句」か「副詞句」のいずれかとして機能し、たいてい「修飾部分 (M)」となります。

前置詞によって作られた句が「形容詞句」と「副詞句」のどちらとして機能しているかを判別するためには、その句の部分だけを見るのではなく、文中でその句が「何を修飾しているのか」を見なくてはなりません。

前置詞によって作られた句が、「名詞」を修飾し、「形容詞」として機能していれば、その句は「形容詞句」であると判別されます。また前置詞が作った句が「動詞」や「形容詞」や「副詞」を修飾し、「副詞」として機能していれば、その句は「副詞句」であると判別されます。

例1：The people in that town were all very friendly.

「あの街の人々は皆とても友好的だった。」

（前置詞「in」は、名詞「town」の前に置かれ、句を作っている。この句は、名詞「people」を修飾しているので「形容詞句」であると判別される。）

例2：He lives in San Francisco. 「彼はサンフランシスコに住んでいる。」

（前置詞「in」は、名詞「San Francisco」の前に置かれ、句を作っている。この句は、動詞「lives」を修飾しているので「副詞句」であると判別される。）

例3：I am taller than my father. 「私は私の父よりも背が高い。」

（前置詞「than」は、名詞「father」の前に置かれ、句を作っている。この句は、形容詞「taller」を修飾しているので「副詞句」であると判別される。）

例4：We had better get out of this building right away.

「私達はすぐにこの建物から外に出た方が良い。」

（前置詞「of」は、名詞「building」の前に置かれ、句を作っている。この句は、副詞「out」を修飾しているので「副詞句」であると判別される。）

(2) 前置詞が作った「句」の働き 2 (be 動詞などの「補語」となる)

前置詞によって作られた句が、「修飾部分」となるのではなく、述語動詞の「**補語 (C)**」となる場合もあります。この場合、前置詞によって作られた句は「形容詞句」として機能していると考えられます。また、この場合の前置詞の部分は、日本語では「**～のもの**」のように「名詞」的に表すと良いのですが、この部分はあくまでも「形容詞句」として機能しているということを理解しておきましょう。

この表現には、「**be about ~** (～についてのもの)」「**be for ~** (～のためのもの)」「**be from ~** (～からのもの、～出身の者)」「**be worth ~** (～の価値があるもの)」などがあります。

例 1 : This story is **about two girls** who live in New York.

「この物語は、ニューヨークに住んでいる 2人の少女についてのものである。」

(前置詞「about」は、名詞「girls」の前に置かれ、句を作っている。この句は、「形容詞句」として機能し、述語動詞「is」の「主格補語」となっている。)

例 2 : These flowers are **for your daughter**.

「これらの花はあなたの娘さんへのものです。」

(前置詞「for」は、名詞「daughter」の前に置かれ、句を作っている。この句は、「形容詞句」として機能し、述語動詞「are」の「主格補語」となっている。)

例 3 : We are **from Mexico**.

「私達はメキシコ出身の者です。」

(前置詞「from」は、名詞「Mexico」の前に置かれ、句を作っている。この句は、「形容詞句」として機能し、述語動詞「are」の「主格補語」となっている。)

例 4 : This painting is **worth twenty thousand dollars**.

「この絵は 2万ドルの価値があるものだ。」

(前置詞「worth」は、名詞「twenty thousand dollars」の前に置かれ、句を作っている。この句は、「形容詞句」として機能し、述語動詞「is」の「主格補語」となっている。)

2. 前置詞の後ろに続く言葉

(1) 前置詞の目的語

「前置詞」の後ろに置かれ、前置詞が作る句の「一部」となる語のことを「**前置詞の目的語**」と言います。「前置詞の目的語」となる品詞は、原則として「**名詞**」か「**代名詞**」です。また、その他にも、名詞と同じ働きをするもの、例えば「動名詞」や「名詞節」なども「前置詞の目的語」となります。さらに、稀に「形容詞」や「副詞」や「前置詞に作られた句」なども「前置詞の目的語」となる場合があります。

第2節 代表的な前置詞

代表的な前置詞には、「**in**」「**at**」「**on**」「**to**」「**for**」「**of**」「**with**」「**by**」「**from**」の9つがあり、いずれも「基本イメージ」を持っています。以下、具体的な例を見ながら、「基本イメージ」を頭に浮かべてみましょう。また、より詳細な用法については、辞書などで個別に学習しましょう。

1. 前置詞「in」の用法（基本イメージ：「範囲内」）

(1) 前置詞「in」1：「～に」「～の中に」（「空間的範囲内」の意）

例：He likes to stay **in his room**.

「彼は彼の部屋（の中）にいることを好んでいる。」

(2) 前置詞「in」2：「～に」（「時間的範囲内」の意）

例：It snows **in December** here.

「ここでは12月に雪が降る。」

(3) 前置詞「in」3：「～後に」「～のうちに」（「未来の動作時刻」「期限」の意）

例：He will leave here **in two hours**.

「彼は2時間後にここを出発します。」

（この意の「in」は「～以内」の意ではなく、「～後に」の意であり、「未来の1時点」を表す場合に使われる。「～以内」を表す場合には「within」が使われる。）

（★「時の経過」を表す前置詞 → P. 549 参照。）

(4) 前置詞「in」4：「～（の色の服）を着て」「～（の服装）に身を包んで」（「装着」の意）

例：The girl **in red** is my niece.

「その赤い服を着た少女は私の姪である。」

(5) 前置詞「in」5：「～において」「～の点で」（「観点」の意）

例：I agree with you **in this regard**.

「この点において、私はあなたに同意する。」

(6) 前置詞「in」6：「～語で」「～語を使って」（「使用言語」の意）

例：The book was written **in French**.

「その本はフランス語で書かれていた。」